

季刊 湘南自然誌

2020年 夏の記録号 通巻18号

Vol.18

Shonan Nature Magazine
2020 Summer Report



Contents

P1 ~ 四季のコラム

P3 ~ 特集 いつまでも昆虫好きでいたい!
「三浦半島昆虫研究会」

P7 ~ みんなでつくる生きもの図鑑

P24 平岡幼稚園 ActionReport

P25 教育コラム・知育ゲーム

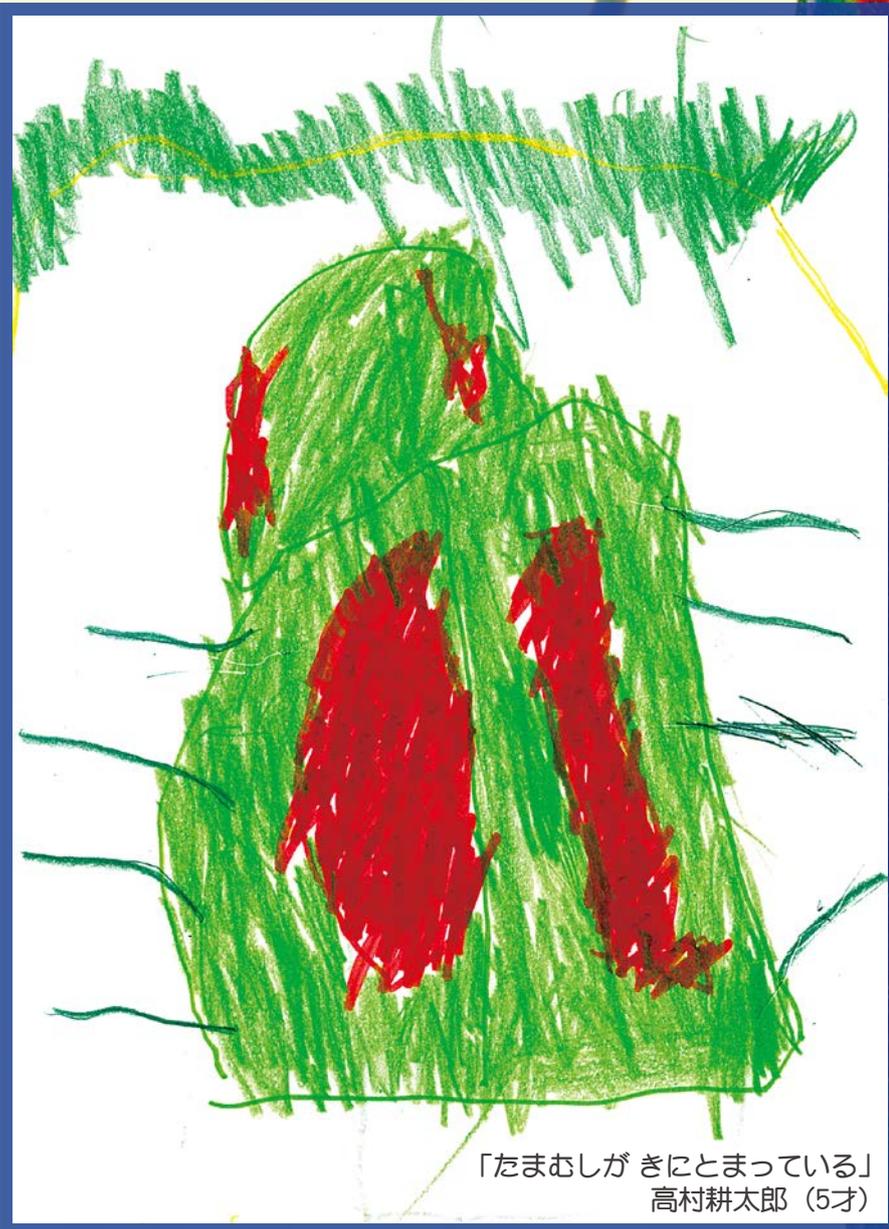
P26 おえかきひろば

P27 NEWS・知育ゲームの答え

特集

三浦半島昆虫研究会

いつまでも昆虫好きでいたい!



「たまむしがきにとまっている」
高村耕太郎 (5才)



自然はみんなのワンダーランド！

四季のコラム 2020夏

園児と共に自然に触れ合う中から生まれた自然にまつわるコラムです

ほった よしのすけ
堀田 佳之介



平岡幼稚園 園長
1級こども環境管理士
2級ビオトープ施工・計画管理士
神奈川昆虫談話会会員
ひらつか生物多様性推進協議会幹事

私たちの身近な自然環境にも いつの間にか侵入している外来種

2020年6～8月の3ヶ月の間にも、湘南地域における生物のさまざまなニュースや話題が得られましたが、残念ながらその多くが外来種の話でした…。前号で外来種特集をしたばかりではありますが、今号でも外来種をテーマに取り上げたいと思います。

神奈川県で絶滅したはずの シラホシハナムグリが大量に…



外来種と考えられるシラホシハナムグリ。発見者の卒園児らと共同で調査を行いました。



於：平岡幼稚園
研修センター

神奈川昆虫談話会の高橋
和弘先生による同定作業

シラホシハナムグリは、表題の通り神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006において絶滅種となっているのですが、今夏に平塚市の市街地にある公園で多数の個体が発見されました。その数は数百個体にもものぼっています。

そもそも、なぜ絶滅したはずのシラホシハナムグリが大量に見られるのでしょうか？実は同じような現象が東京23区の臨海部の公園でも起きていることが報告されています（岸本ら、2017）。東京都の事例では外来種と推測されていますが、今回平塚市で見つかった個体も同様に外来種と考えられます。このことについての詳細は、神奈川昆虫談話会が発行する機関誌「神奈川虫報」にて報告を行う予定です。

調査の様子については、P24のアクションレポートをご覧ください。



今年は平岡幼稚園内でも多くの個体が見られます。
(成虫:左上, 幼虫:右下)

増加が目立つキマダラカメムシ

東南アジア～台湾原産のキマダラカメムシが日本に侵入したのは江戸時代、長崎県の出島とされています。温暖化の影響からか、近年、国内で急速に分布域を拡大し、既に神奈川県にも侵入しています。私が湘南地域で初めて確認したのは2016年8月、平塚市の東八幡でした（湘南自然誌Vol.2に掲載）。その後、年を追うごとにさまざまな場所で見かけることが多くなり、かなり増えていると感じています。今号の「みんなで作る生きもの図鑑」でも、平岡幼稚園も含む平塚市周辺の7地点より計8枚の写真が集まっています。

ちなみに、本種の成虫の体長は約20mmと大型で、日本で見られるカメムシ亜科の中では最大級の大きさになります。木の幹でよく見られることが多いです。

平岡幼稚園（平塚市）の トウキョウダルマガエル

平岡幼稚園で見つかったトウキョウダルマガエル。
園児と共に捕獲を試みましたが、今のところ捕獲できていません。



2020年6月23日に平岡幼稚園内の池で神奈川県レッドデータブック絶滅危惧II類のトウキョウダルマガエルが1個体見つかりました。個人的には平塚市内での絶滅を懸念しておりましたので、通常であれば嬉しい発見となるのですが・・・。

問題はここからです。どこからやってきたのか、という疑問です。平岡幼稚園のビオトープは2009年の創出以来、「生きものの持ち込みは行わない」をテーマにして管理しております。近隣の田んぼは乾田化・水路のU字溝化が進み、生息に適したような場所は見当たりません。私が把握していないだけで近隣の宅地内に水辺が合ったりする可能性もあるのですが、最も普通に考えられるのは人為的に放たれた可能性です。どなたかが善意で放たれたのかも？

トウキョウダルマガエルは貴重な種ですが、だからといって安易に人の手で移動させてしまうことは、逆に地域の自然の価値を低めることに繋がってしまいます。このようなリスクを多くの人に知っていただきたいと思っております。

ムネアカオオクロテントウ 湘南地域へ侵入

台湾・中国南部・東南アジア原産のムネアカオオクロテントウが、湘南地域への侵入が危惧されることについて、前号の本コラムで話題提供をしましたが、やはり、湘南地域で見つかってしまいました。見つかった場所は幹線道路沿いや河川敷のクズ（葛）が見られる場所です。複数地点で見つかり、今後、湘南地域各所で目撃情報が増えてくるものと思われます。

本件については、三浦半島昆虫研究会の機関誌「かまくらちょう」にて報告を行う予定です。



湘南地域で見つかったムネアカオオクロテントウ

湘南地域にも外来種 トガリアメンボが...



お腹の
先が尖る

平塚市で撮影したトガリアメンボ無翅型(左写真)と幼虫(右写真)

トガリアメンボは東南アジアなど南方に分布する外来種で、2001年に兵庫県で確認され、近年は関東地方での確認例が増えています。2020年8月、ついに平塚市内でも初発見されました。

本種は、お腹の先が尖っていることが特徴で、体長は約5mm。水面をよーく見ないと見つからないかもしれません。このような小さなアメンボが、どのようにして長距離を移動し、分布を広げているのでしょうか？本種は、翅(はね)がない無翅型と、翅(はね)がある有翅型があるので、有翅型が飛んで空の旅をしているものと思われます。神奈川県は池沼環境が多いとは言えませんが、それでもピンポイントに辿り着けている現状には驚きです。

日本生態学会会員の岸一弘先生によると、今年、平塚市の他にも、県内の複数地点で発見されたとのこと。詳細は、近々、昆虫専門誌“月刊むし”で報告されます。

いつまでも昆虫好きでいたい! 三浦半島昆虫研究会 (三昆研)



三浦半島昆虫研究会
なかむら しんいち
中村 進一
代表幹事

インタビュアー：堀田佳之介（平岡幼稚園園長）
1級こども環境管理士、2級ビオトープ施工・計画管理士、
神奈川昆虫談話会会員、三浦半島昆虫研究会会員

三浦半島昆虫研究会とは？

堀田佳之介（以下、堀田）> 三浦半島昆虫研究会（以下、三昆研）には私も参加させていただいてまして、大変楽しい会なのでぜひ読者の皆様にも知ってもらいたいと思い、代表幹事の中村さんにお話を伺いに来ました。まず、簡単に会の成り立ちを教えてくださいませんか？

中村進一（以下、中村）> 横浜市の中学校の理科の教員で生物部でも指導されていた石渡裕之先生（故人）と、その教え子の高桑正敏さん（のちの神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員・故人）や私等数名のグループと、当時の横須賀市博物館の大場信義先生（故人）たち数名が合流して、1977年に発足した昆虫研究会です。

堀田> 今では県を代表する研究会の一つとして知られていますが、発足当初はどんな活動をされていたんですか？

中村> 最初はこの博物館に集まって昆虫についての情報交換をしていましたが、これだけのメンバーが集まったのだから、三浦半島のチョウ類の情報をしっかりまとめようじゃないか、ということになって、『横須賀市博物館 研究報告』に「三浦半島の蝶」を発表しました。それが1984年の横須賀市自然・人文博物館特別展示「三浦半島の蝶」展の開催に繋がった。これが三昆研の初期の大きな活動ですね。

堀田> 当初から博物館とタイアップされていたんですね。

中村> そうです。2005年には、三浦半島の昆虫についての特別展をこの博物館と共催しています。同時に『三浦半島にすむ昆虫からのメッセージ 身近な自然 今昔一』という書籍を三昆研が編纂して、博物館が発行しました。私はこの時期、会の活動から離れていたのですが、当時のメンバーの労作ですね。それ以後も、昆虫関係の企画では博物館と連携していますね。その他にも、博物館の標本の整理などにも協力しています。

機関誌『かまくらちょう』

堀田> 三昆研としての研究活動は、どのようなものがありますか？

中村> 一例をあげると、うちの仲間の秋山秀雄さんがコウチュウ類の標本をこの博物館に寄贈して、それが秋山コレクションとしてこの地域のコウチュウ類の研究の核となる資料となっているんですよ。また、三昆研では『かまくらちょう』という機関誌を出版して、データに基づく報告文や考察を発表しています。専門家も利用できる正式なデータとして残すことが大切なので。そういえば、平岡幼稚園さんも投稿してくださってますね。

堀田> はい、幼稚園の活動で得た知見が、正式なデータとして活かされることになるので大変ありがたいです。最新号は96号となっていますが、創刊はいつ頃なんですか？



1977年、三昆研創立記念パーティー（於：横須賀市博物館）

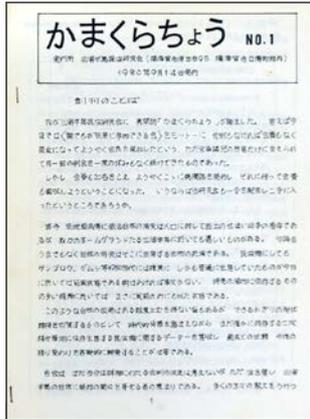
当時の神奈川新聞にも取り上げられ、三昆研初期の大きな成果のひとつとなった。



1984年2〜3月に開催された横須賀市自然・人文博物館特別展示「三浦半島の蝶」展図録
(1984年 横須賀市自然・人文博物館発行)



三昆研編集「三浦半島にすむ昆虫からのメッセージ-身近な自然今昔-」(2005年)



『かまくらちょう』創刊号(1980年) 40年で96冊を出版。メンバーが集めた貴重な知見が詰まっている。



『かまくらちょう』89号。224ページにも及ぶ、三浦半島の米海軍施設内の貴重な報告となっている。



かつての三浦半島を代表する蝶 モンキアゲハ

中村 > 1980年です。これが創刊号なんですよ。(上写真) 10号まで手書きホッチキス止めで出していました。

堀田 > タイトルの「かまくらちょう」とはどういう意味なんですか？

中村 > 三浦半島、横浜南部、鎌倉あたりでは、黒いアゲハチョウを「かまくらちょう」と呼んでいたんです。アゲハチョウ全体を「かまくらちょう」と呼んでいた地域もあるんですけど、この地域特有の呼び方が三浦半島の研究会にふさわしいと思い、タイトルとして採用したんです。

堀田 > そういことだったんですね。「ちょう」と入っていますが、内容はチョウ類限定ではないですよね？

中村 > そうですね。当初はチョウ類中心でしたが、今はそれ以外の報告も多く集まっています。それから、地域も三浦半島に限定してはではありません。会員の皆さんは三浦半島以外でも活動されていますから、様々な地域の報告が寄せられる機関誌になっています。

堀田 > 横須賀・逗子の米軍施設の昆虫調査も三昆研が担当されて、『かまくらちょう』89号に発表されてますよね？ その厚さには驚きました。

中村 > 大場先生や石渡先生が主導されて、三昆研が実地調査を2006年から2012年に渡って担い、89号で200ページを超える報告としてまとめました。それまで米軍施設は立ち入りが制限されていたので、昆虫相の実態が不明な空白地帯だったのですが、この調査でかなり明らかにできたかと思えます。半島や県の未記録種も多く見つかったんですよ。

堀田 > この調査は、チョウだけでなくトンボ・バッタ・カメムシ・コウチュウからハエ・ハチなどまで多分野に渡っていて、三昆研メンバーの層の厚さが伺われますね。まもなく100号ですが何か企画を考えられていますか？

中村 > 100号は三浦半島の昆虫を調べる際の道しるべとなる総目録のような本にしたいですね。すべての分野は無理ですけど、できる範囲でまとめてみたいと思っています。

三浦半島の自然の特色

堀田 > 三浦半島には昆虫類から見るとどのような特色があると感じられていますか？

中村 > 三浦半島の固有種だとミウラメクラチビゴミムシがいますね。また、高いところでも標高が200m程度なのに、県内の他の低山地には分布しない種、ミヤマクワガタ、ミヤマクロハナカミキリなどが見られるのも特徴ですね。私はチョウが専門なのでチョウの視点から見ると、1960年代は三浦半島を代表するチョウはモンキアゲハだと皆言っていました。当時は東京や横浜の方にはあまり進出していなくて、三浦半島は温暖なこともあって多産していたから。今はどこでも普通に見られますけどね。

堀田 > クマゼミも1990年頃は三浦半島南端の城ヶ島と大磯以西でしか発生していなかったのが、今は多くの地域で発生していますね。

中村 > あと、三浦半島は三方を海に囲まれていて他地域から隔離傾向にあるせいか、昆虫の種類によっては隣接地域からの侵入が少し遅れる気がしているんです。たとえば



写真提供：菅谷和希氏

三浦半島固有種 ミウラメクラチビゴミムシ



撮影協力：横須賀市自然・人文博物館

三浦半島では、県内の他の低山地には分布しないミヤマクワガタも見られる



三方を海に囲まれた三浦半島

写真：photoAC



基礎昆の様子（於：横須賀市自然・人文博物館）



飼育材料に使われているカラスアゲハ



網を食草に被せて採卵

外来種のアカボシゴマダラは藤沢で見つかったからすごい勢いで拡散していったけれども、三浦半島全域に侵入して定着するのに7年から9年かかっている。理由はよく分からないんですけどね。南方系種のカラスアゲハの進出もちょっと遅かったし。

堀田> 私は2019年に、最近入ってきた外来種のカスベニヒラタカミカメを調べたのですが、県内の多くの地域で侵入を確認できたのに、三浦半島では半島基部の鎌倉で少し見つかっただけで、半島内部では見つからなかったんです。もしかすると、この地域にはそういう傾向があるのかもしれないですね。

研究以外の活動も

堀田> 三昆研では、研究だけでなく市民への啓発活動などもやられているとのことですが。

中村> そうですね。博物館と共催で「基礎から学ぼう昆虫学（通称：基礎昆）」という講座を開いています。参加者は博物館で公募していて、人数が多いときは抽選になります。対象は基本的には子どもとその保護者なんですが、大人が一人で参加してくることもよくありますよ。私たちが担当しているのは、飼育材料の提供と講師の派遣。次回以降の企画作りにも参加しています。

堀田> 具体的にはどんな講座なのですか？

中村> 4回講座なんですけど、初回は昆虫の基本的なことを博物館室内で学習した後に、野外で実際に観察します。2回目は標本作りの体験。3回目は県立観音崎公園の中で昆虫観察を行い、4回目はこの博物館で最終的なまとめ

セミの抜け殻調査。ただ、今年は新型コロナの影響で野外での観察活動は出来ず、博物館のみで講座を行うことになりました。それから、参加者にカラスアゲハなどの卵や幼虫を渡して自宅で飼育してもらっています。幼虫の餌（カラスザンショウなど）の調達がしやすいので、大体うまく成虫になってくれますよ。

堀田> カラスアゲハは綺麗ですしいいですね。卵はどうやって集めるのですか？

中村> 百均とかで洗濯ネットを買ってきて食草に被せて、そこに親を入れておけば、ボンボン産みます。

堀田> 交尾後の成虫を選んで採集して来るんですか？

中村> 野外で捕まえたメスは99%交尾済みなんです。羽化する直前の蛹にオスがまとわりついていることも多くて、成虫になったらすぐに交尾してしまうんです。幼虫や蛹を探すより、見つけやすい成虫を捕って産卵させるのが一番簡単ですね。

堀田> その他にはどんなことをされていますか？

中村> 偶数月に例会を開くほか、半島内の調査会を年に二回行っています。「基礎昆」の参加者の子どもに呼び掛けて一緒に行ったりもしますよ。ギンヤンマが飛んできたりして大喜びでしたよ。他には、一泊で行う会員の親睦会も兼ねた県外調査会も年一回やってます。ちなみに忘年会もやっていて、そこだけ来る会員もいます（笑）

堀田> 私も去年初めて参加させていただきました。

中村> そうでしたね。時には各自昆虫関係の資料を持ち寄ってオークションをやったりする楽しい忘年会ですよ。あと、年四回くらい逗子の市民プラザなどでサロンも開い



長年の活動が評価され、平成30年度「横須賀いいね★エコ活動賞」受賞



半島内調査会（鎌倉市十二所）



内外から演者を迎えて行う例会
(於：横須賀市自然・人文博物館)



標本を手に語り合う～サロンの様子

てます。会員が珍しいチョウを見つけたりしたら、それを皆の前で発表してもらったり。そういったことも合わせれば毎月何かしらやっていますね。あと、会員用のメーリングリストを作って、地域の昆虫情報をシェアしたり、分からないことをメンバー間で教えあったりしていますね。イベントに参加できなくてもオンラインで情報交換に参加できるのも三昆研の特色です。

堀田> 入会者には、さらに機関誌『かまくらちょう』なども送られてきて、会費が年3000円ですからお得ですね。

中村> 社会人は年3000円、高校生・大学生は2000円、中学生以下は1,000円です。

堀田> 読者の中で昆虫が好きの方は、ぜひ参加してみたいと思います。私もこの会に参加してまだ5年くらいですが、当初から皆さんが大変親切に色々教えてください、感謝しております。

世代を問わず、虫好きが集う会に

中村> 虫が好きだという気持ちはどこにも負けないグループだと思っています。現在会員は90名くらいいて、プロアマ問わず様々な分野の専門家が名を連ねています。80歳の会員も何人かいるんですよ。調査なんかに行くときスキップして虫を追いかけてます(笑)。若い会員もそれにつられて目を輝かせてますよ。

堀田> 下はいくつくらいの方が参加されてるんですか？

中村> 一番若い子で小学4年生くらいじゃないかな。参加する世代はバラバラでも、昆虫好きという共通項があるし居心地いいんでしょうね。雨が降っても例会に来ますよ。

堀田> 子どものころ虫好きでも大きくなると離れてしまう場合が多いですね？

中村> そう。そういう子がいつまでも虫好きでいられるような受け皿になればと思います。

堀田> その一方で、大人になっても虫を追いかけると、「いい歳して何をやってるの!？」なんて世間では言われがちですよ(笑)

中村> でも、そういう大人がいることが大事なんです。アマチュアがプロと共に地域の昆虫研究まで担っているのが日本なんです。世界的には、アマチュアが集めた情報を博物館の学芸員や研究者がまとめて分析するもので、プロとアマの間に明白なラインがあるんですよ。

昆虫遊びから研究まで

堀田> 三昆研は、仕事優先で昆虫から離れていた大人も、若いころより熱くなれるような会で、望めば研究までできる。そのような会の存在意義はとても高いですね。

中村> ええ。私もそうありたいと思いながら運営しています。昆虫遊びが研究まで繋がっていく奥深い世界ですので、昆虫が好きという気持ちをさらに発展させていける会にしたいと思っています。

堀田> この記事を読んで三浦半島昆虫研究会に興味を持った方がいたら、どのようにしたらいいですか？

中村> 会員・非会員関係なく楽しめる企画が毎月のようにありますから、まずは博物館に来て観察会などに参加してほしいですね。手続きなんか二の次でいいんです。ぜひお待ちしております！



虫好きのみなさん参加お待ちしております！

三浦半島昆虫研究会 (通称：三昆研)

三昆研 HP



三浦半島昆虫研究会(三昆研・さんこんけん)は、三浦半島を中心に昆虫の研究活動を行っています。
創立43年目を迎える歴史ある昆虫同好会です。

お問い合わせは、三昆研 HP メールフォーム、または横須賀市自然・人文博物館へ。
三昆研 HP : <https://main-sankonken.ssl-holipop.jp/>

※ ミウラメクラチビゴミムシの写真を提供して下さった菅谷和希氏と、標本の撮影に協力していただいた横須賀市自然・人文博物館に感謝申し上げます。(編集部)

創刊から累計で
昆虫類548種
その他163種
になりました!
※種名が判明したものに限り

湘南発 みんなでつくろ!

生きもの図鑑

2020年6月~8月版 夏

皆さんからの投稿写真を季節毎にまとめた、タイムリーな生きもの図鑑です。地域の生物情報の蓄積を図り、自然環境の保全に役立てたい、とのみんなの願いが詰まっています。
(対象地域: 神奈川県)

※ この図鑑は編集部での責任で作成しています。誤りが判明した場合は速やかに訂正いたします。
※ 同定は堀田佳之介が行っていますが、同定に迷ったものは日本生態学会の岸一弘先生にお願いしています。
〔岸同定〕マーク付与。プレート画像のみの判断では、性別や年齢が不明な場合があります。)
※ 今号より平岡幼稚園の「原っぱ」は、「園庭」に含めました。

テントウムシみたい
だけど、カメムシの
グループだよ!



図鑑の見方 ① 場所 ② 年月 ③ 氏名 (危) 危険な生き物 (外来) 外来種 (岸同定) 岸先生同定種

昆虫網 トンボ目

県レッドデータブック2006
絶滅危惧II類

岸同定

オツネイトンボ♀

① 平塚市北金目 ② 2020年6月上旬
③ 高村葵一・耕太郎

オオアイトンボ♂

① 厚木市中萩野 ② 2020年7月中旬
③ 後藤柚香

アサヒナカワトンボ (伊豆個体群)

① 秦野市曾屋 ② 2020年6月上旬
③ 鶴田琢乃

ミヤマカワトンボ

① 秦野市曾屋 ② 2020年6月上旬
③ 鶴田琢乃

※ 現在は普通に見られる

県レッドデータブック2006
要注意種

ハグロトンボ幼虫

① 平塚市北金目 ② 2020年6月下旬
③ 山田衛

※ 現在は普通に見られる

県レッドデータブック2006
要注意種

ハグロトンボ♂

① 平岡幼稚園 平岡の森
② 2020年7月中旬 ③ 平野志紳

※ 現在は普通に見られる

県レッドデータブック2006
要注意種

ハグロトンボ♀

① 平塚市南金目 ② 2020年7月下旬
③ 後藤美結

※ 現在は普通に見られる

県レッドデータブック2006
要注意種

ハグロトンボ♀

① 秦野市曾屋 ② 2020年8月上旬
③ 石井律有

県レッドデータブック2006
要注意種

※ 現在は普通に見られる

ハグロトンボ♀

① 秦野市曾屋 ② 2020年8月中旬
③ 沼野井碧斗

※ 現在は普通に見られる

県レッドデータブック2006
要注意種

ハグロトンボ♂

① 平塚市北金目 ② 2020年8月中旬
③ 山田衛

アオモンイトンボ♂

① 平岡幼稚園 平岡の森
② 2020年6月下旬 ③ 河野颯太郎

アオモンイトンボ♀

① 秦野市鶴巻 ② 2020年7月下旬
③ 沼野井碧斗

岸同定

アジアイトンボ♀

① 中井町井ノ口 ② 2020年7月中旬
③ 猪俣賢人

アジアイトンボ♀

① 平塚市真田 ② 2020年7月下旬
③ 小松稜亮

県レッドデータブック2006
要注意種

ミルシヤンマ♂

① 平塚市上吉沢 ② 2020年8月上旬
③ 堀田来佳

県レッドデータブック2006
絶滅危惧II類

カトリヤンマ♀

① 平塚市土屋 ② 2020年8月上旬
③ 堀田来佳



マルタンヤンマ羽化殻

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③小川律



ヤブヤンマ♂

①平塚市御殿 ②2020年7月上旬
③小野麻琴



ヤブヤンマ♀死体

①秦野市南矢名 ②2020年7月下旬
③金野慧一朗



ギンヤンマ♀死体

①平塚市北金目 ②2020年8月下旬
③高村耕太郎



ウチワヤンマ♂

①平塚市大原 ②2020年8月中旬
③堀田來佳



コオニヤンマ幼虫

①平塚市南金目 ②2020年6月中旬
③山本侑樹・壮真



コオニヤンマ♀

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③増山優菜



オナガサナエ♀

①平塚市北金目 ②2020年8月上旬
③山田剛輝



ミヤマサナエ羽化殻

①平塚市南金目 ②2020年6月中旬
③山本侑樹・壮真



オニヤンマ羽化殻

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③品川依織



オニヤンマ幼虫

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③古川紘太郎



オニヤンマ♀

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年7月上旬 ③尾田希葵



オニヤンマ羽化殻

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年7月中旬 ③須藤清葉



オニヤンマ♂

①山北町中川 ②2020年8月中旬
③相澤るか



ナツアカネ (未熟)

①平塚市北金目 ②2020年7月中旬
③高村葵一

県レッドデータブック掲載種



マコトアカネ♂

①厚木市中萩野 ②2020年8月下旬
③後藤柚香

県レッドデータブック掲載種



ショウジョウトンボ♂

①厚木市中萩野 ②2020年6月中旬
③後藤柚香



ショウジョウトンボ♀ (未熟)

①平岡幼稚園 園庭
②2020年8月下旬 ③高村耕太郎



ウスバキトンボ♀

①平塚市諏訪町 ②2020年7月上旬
③福島仁菜



ウスバキトンボ♂

①平塚市諏訪町 ②2020年7月上旬
③相澤永人



ウスバキトンボ

①平塚市岡崎 ②2020年7月中旬
③佐野愛子



ウスバキトンボ♀

①平塚市河内 ②2020年8月上旬
③石井律有



ウスバキトンボ

①清川村宮ヶ瀬 ②2020年8月中旬
③山田衛



ハラビロトンボ♂

①秦野市羽根 ②2020年8月中旬
③小松稜亮

県レッドデータブック掲載種



シオカラトンボ♂

①中井町井ノ口 ②2020年7月中旬
③猪俣賢人



シオカラトンボ♂

①平塚市河内 ②2020年8月上旬
③石井律有



シオカラトンボ♂(未熟)

①平塚市真田 ②2020年8月上旬
③加藤燦太



シオカラトンボ♂

①秦野市鶴巻南 ②2020年8月上旬
③高村耕太郎



シオカラトンボ

①平塚市南金目 ②2020年8月中旬
③山本侑樹・壮真



オオシオカラトンボ♀

①平岡幼稚園 園庭
②2020年6月中旬 ③豊島彩



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③横山巧



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③大塚樹奈



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③鈴木翔大



オオシオカラトンボ羽化殻

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③塩川碧大



オオシオカラトンボ羽化殻

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年6月下旬 ③後藤美結



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 園庭
②2020年7月上旬 ③桑原しおり



オオシオカラトンボ♂(テネラル)

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年7月中旬 ③大森壮馬



オオシオカラトンボ♀

①中井町井ノ口 ②2020年7月中旬
③猪俣篤人・賢人



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 園庭
②2020年8月下旬 ③清水悠誠



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年8月下旬 ③井上璃乃



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年8月下旬 ③伊藤大翔



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年8月下旬 ③元野愛菜



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年8月下旬 ③曾我莉桜



オオシオカラトンボ♂

①平岡幼稚園 平岡の森
②2020年8月下旬 ③山本武翔



ヤブキリ♂

①平塚市真田 ②2020年6月中旬
③塩川碧大



ヤブキリ♀

①平塚市土屋 ②2020年6月下旬
③荒井啓三



ヤブキリ♀

①秦野市南矢名 ②2020年7月中旬
③金野慧一朗



ヒガンキリギリス♂

①平塚市土屋 ②2020年6月下旬
③荒井啓三

県レッドデータブック掲載種



クサキリ♂
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年7月下旬 ③ 高村耕太郎



クビキリギス♀
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年6月中旬 ③ 村田稔月



クビキリギス♂
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年6月中旬 ③ 矢澤庸



クビキリギス♀
① 平塚市大原 ② 2020年7月中旬
③ 鈴木一汰



クビキリギス♂幼虫
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年7月下旬 ③ 岩崎閑久



ホシササキリ♂
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年7月上旬 ③ 大森壮馬



岸同定
ハタケノウマオイ♂
① 平塚市南金目 ② 2020年8月上旬
③ 山本侑樹・壮真



ツコムシ♀
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年7月下旬 ③ 木下瑛太



ヒメクダマキ目キ
① 大磯町虫窟 ② 2020年8月下旬
③ 海老澤顕寿



エンマコオロギ♂
① 平塚市北金目 ② 2020年8月中旬
③ 高村耕太郎



岸同定
エンマコオロギ♂
① 平塚市岡崎 ② 2020年8月下旬
③ 海老澤顕寿



県レッドデータブック2006
要注意種
ケラ
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年6月下旬 ③ 松澤遙



ケラ幼虫
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年6月下旬 ③ 清水悠誠



ケラ
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年7月中旬 ③ 小宮悠太郎



ケラ
① 平塚市岡崎 ② 2020年7月中旬
③ 府川瑞季



県レッドデータブック2006
要注意種
ケラ
① 平塚市真田 ② 2020年7月下旬
③ 加藤煌真



ケラ
① 平塚市岡崎 ② 2020年8月下旬
③ 海老澤顕寿



岸同定
ヤマトフキバッタ♀
① 厚木市中坂野 ② 2020年7月中旬
③ 後藤柚香



ツチイナゴ
① 平塚市土屋 ② 2020年6月下旬
③ 荒井啓三



トノサマバッタ幼虫
① 平塚市豊田 ② 2020年6月上旬
③ 原咲優菜・叶大



イロバッタ幼虫
① 平塚市真田 ② 2020年6月下旬
③ 小野麻琴



岸同定
イロバッタ♂
① 平塚市岡崎 ② 2020年8月上旬
③ 佐野拓生・紗弥子・龍生・真碧子



ショウリウヨウバッタ幼虫
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年6月上旬 ③ 須藤青葉



ショウリウヨウバッタ幼虫
① 平岡幼稚園 園庭
② 2020年6月上旬 ③ 鈴木大尊